

「令徳唱高言 識曲聴其真」（令徳、高言を唱えば 曲を識りて其の真を聴く）

周 晨亮（しゅう しんりょう）

（元）富士フイルム(株)みどり寮

（元）東京工業大学

「恩返しなどしなくても良い」

仰った後の太田さんのさっぱりとした表情は未だに目の裏に焼き付いて消えていない。

2009年の7月11日に北京でOB会が開かれた。帰国して大学の教壇に立つと瞬く間に一年の月日が過ぎ、襟を正して報告に伺ったが気楽な同窓会だった。日本言語文学科に就職した自分は今後日本との懸け橋になる人材を育成することで日本の方々、協会と太田さんに恩返ししたいと告げたが、皆さんそれぞれの良き人生のために支援しているのであって、日本のためになどとはとりわけ望んでいないと、思いがけない言葉を太田さんから頂いた。

一人一人の夢の花を咲かせてこそ教育、太陽を追いかけるひまわりを育てるよりも花々が咲き乱れる花畑を作りたい。そんな太田さんの懐の深さに感銘を受けた。漢末に作成された古詩十九首の「今日良宴会」という詩に、「令徳唱高言 識曲聴其真」という句がある。高德の長者が曲を通して卓論を発表するが、その曲に潜む真意を聴き取れるのは良き理解者のみという意味合いだった。その日に出席しているOBの方々に、きっと太田さんの期待と励ましが伝わっていたはずだ。

今、太田さんから頂いた六枚の年賀状を眺めながら筆を執っている。太田さんと協会のご紹介頂いた富士フイルム様のご厚意を賜って横浜市の寮に住んでいた頃から、毎年太田さんへ年賀状を通して近況を報告してきた。「お元気ですか」という直筆による挨拶を見ると、太田さんの笑顔が自然に浮かび、北京での一期一会の夜に思いを馳せている。

「奄忽随物化、栄名以為宝」（人間とは忽ち物化するもので、令名こそ永遠の宝として後世に残される）。太田さんとの思い出は一生の宝、そして太田さんの令徳、令名が令和の時代に響くことを切に願っている。